

令和4年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は令和4年秋期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

今期の全体取引量は約5.8万本で、前年同期（約5.8万本）よりほぼ同程度となりました。

一般植木は対前年同期比100.2%、株・玉物は95.7%、生垣用樹は112.0%で、全体では100.6%となり回復基調の傾向でした。

全体取引量は、平成10年以降減少傾向が継続しており、減少傾向は緩やかになったものの、今期の取引量は平成10年に比べると13%まで減少しました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約1.5万本で、前年同期（約1.5万本）とほぼ同量でした。

自然形では、カエデ類、ツバキが好調で、カシ類、ヒバ類は若干減少しました。

仕立物では、イヌツゲ、イヌマキが増加したものの、大型の仕立物の取引数量は低調のままです。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約2.8万本で、前年同期（約3.0万本）より約0.1万本減少しました。

イヌツゲが増加に転じたものの、株・玉物の大半を占めるサツキ、ツツジ類がともに若干減少しました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約1.5万本で、前年同期（約1.3万本）より約0.2万本増加しました。

生垣の主要樹種であるサザンカとイヌマキは若干増加する兆しが見えています。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引量の上位10品目では、サツキ、オタフクナンテン、サザンカが依然として上位を占めており、ツツジ類、キンモクセイが続いています。近年、取引量が多かったオタフクナンテン、シマトネリコが減少傾向にあり、それに代わる突出した樹種が少なく、全体に樹種が平均化（多様化）している傾向がみられます。

調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市齊藤町）

図-1 秋期取引量の推移 (単位:万本)

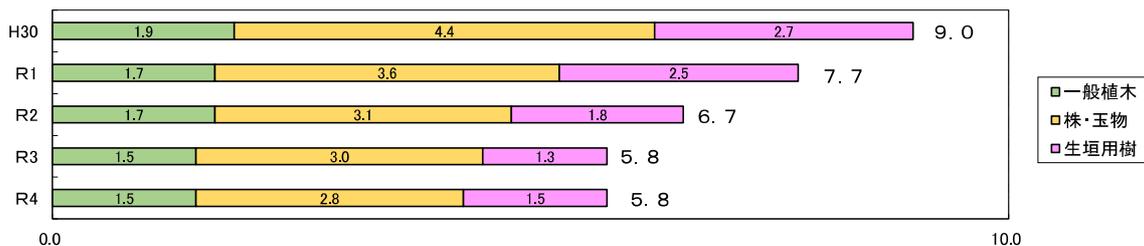


図-2 秋期取引量の区別構成比 (%)

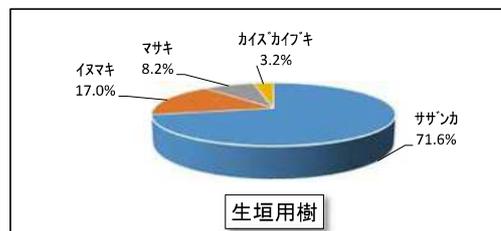
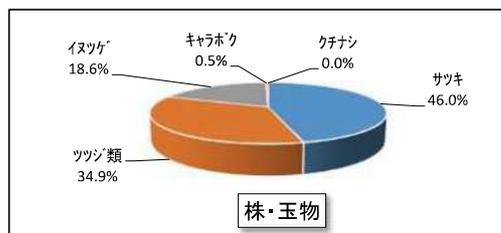
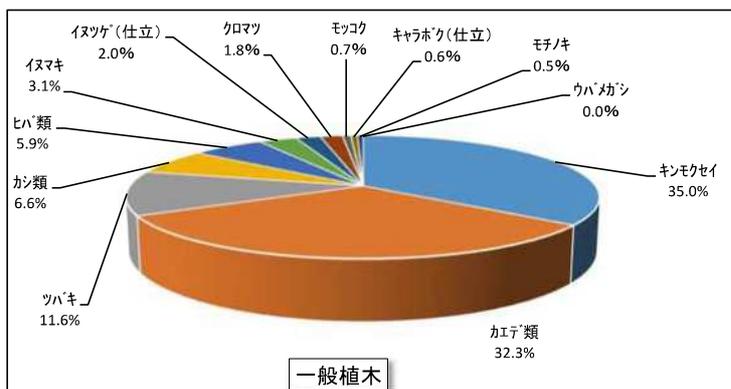


図-3 秋期取引量(追加樹種含む)の区別構成比 (%)

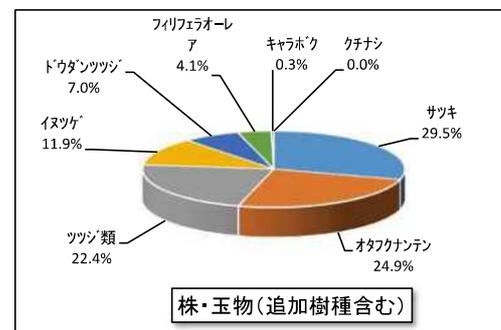
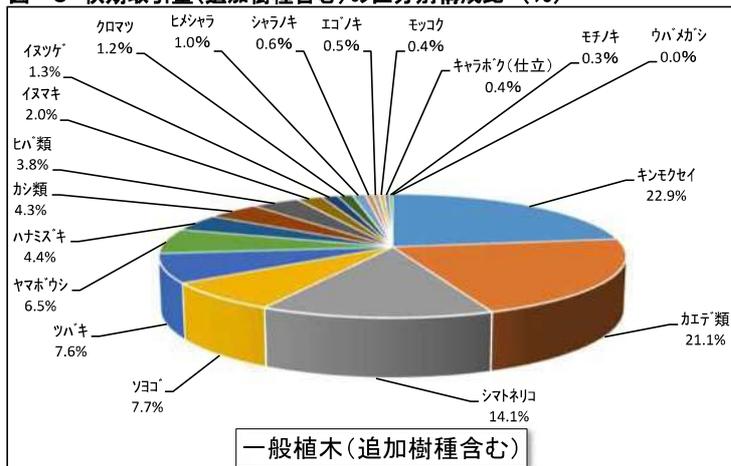


表-1 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和2年			令和3年			令和4年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	↓	サツキ	株	...
2	サツキ	株	...	サツキ	株	↘	オタフクナンテン	株	↘
3	シマトネリコ	—	...	ツツジ類	株	↑	サザンカ	生	...
4	サザンカ	生	↘	シマトネリコ	—	↘	ツツジ類	株	...
5	イヌツゲ	株	↘	サザンカ	生	...	キンモクセイ	—	...
6	ソヨゴ	—	↑	ドウダンツツジ	株	↑	イヌツゲ	株	↑
7	キンモクセイ	—	...	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	...
8	カエデ類	—	...	ヤマボウシ	—	...	シマトネリコ	—	↓
9	ツツジ類	株	↗	カエデ類	—	...	ドウダンツツジ	株	↓
10	ドウダンツツジ	株	↓	ソヨゴ	—	↓	イヌマキ	生	...

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹